

社説

2022.9.15

メンズコスメ潜在需要喚起へ工夫

メンズコスメ(男性用化粧品)で、この15年間で約1.4倍の需要が拡大を続けている。若年層を中心としたスキンケアへの関心の高まりに加え、オンライン会議の普及が進んだことで、画面で健康的な印象を演出したいと考える中高年男性も増えている。調査会社のTPCマーケティングリサーチ(大阪市)によると、2021年の市場は前年比1.8%増の1463億円

に拡大している。従来、メンズコスメは男性が身だしなみや清潔感を重視して取り入れる傾向が強く、洗顔料や剃り毛、育毛剤、整髪などが牽引役となってきた。18年以降は、SNS(交際サイト)などが普及したことで男性でも、より気軽に商品の購入や情報収集が行えるようになり、好調な推移を遂

げているといえよう。そのなかで化粧品各社は男性の需要を取り込むと、製品展開の強化に動く。資生堂は今年6月、高級ブランド「SHISEIDO MEN」以来、19年ぶりとなる男性向け新ブランド「SILK」を立ち上げた。1990年代半ば以降に生まれた「Z世代」の男性をターゲットに

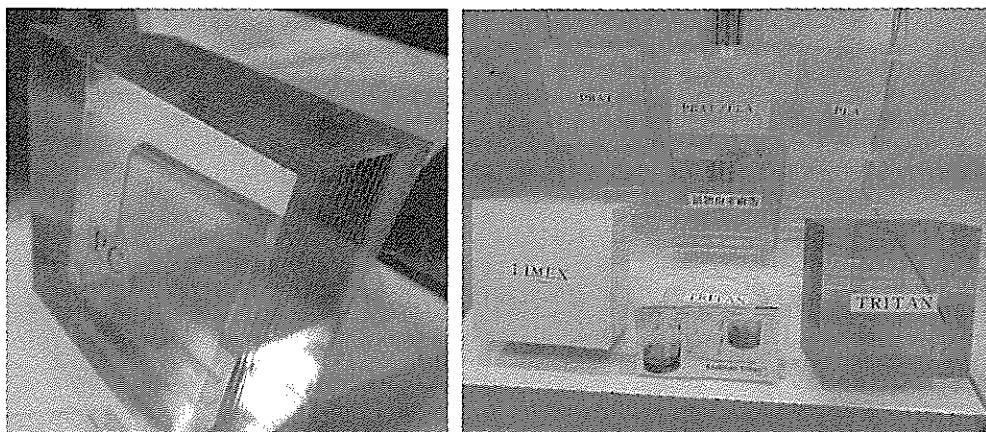
洗顔料や化粧水、クリームなどを取り揃える。コーセー子会社のコーセーコスメポートは、活性化するメンズコスメ市場を見据えて20年に発売した「マニフリーク」ブランドの愛用者獲得に力を入れる。マニフリークは「男性用」「女性用」という固定概念にとらわれない、スキンケア効果や使い心地にこだわるジェンダーレス発想の男性向けブランドだ。

プレミアアンチエイジングも今春、メンズコスメ市場に本格参入した。汗や皮脂の影響を受けている男性特有の肌質をアプローチし、まず洗顔料と化粧水を展開。性別に関わらず、自身のコンディションを整えたいというニーズにこたえ、シニア拡大に挑む。新型コロナウイルス収束の気配がなく、人口減少も踏まえると、女性向けを含めた国内の化粧品市場全体では今後、大きな伸びを見込むことが難しい。一方、男性の化粧品の使用率は、最近ではスキンケアのみならず、ネイルケアにも注目が集まるなど商品の幅は広がりをみせている。「男性は美容への関心が低い」というのは、もう一昔前の話。女性だけでなく男性も「美活」にいそむライフスタイルは着実に普及しつつある。ただ、さらなる市場の拡大には、リアルとオンラインで商品の魅力を伝え、潜在顧客との接点を増やす情報発信力が一層求められる。各社の知恵の絞りどころだ。

持続可能社会／化学総合

プロトタイプを生産や小ロット向けに使われる切削材料の世界で、射出成形品の存在感が増している。固化押出品を中心とした射出成形が一般的な業種だが、生産性に優れた射出成形でありながら、品質も担保できる製品の登場により、実際の製品と同じ射出グレードの樹脂を用いて評価できるメトリックなども注目されている。扱える樹脂グレードの幅の広がりにより、小ロットの量産品に適用するケースも増えつつある。旭モールドینگ(東京都荒川区)の福田晴通社長は「認知度も高まり、かなり幅広い業界へと採用が広がっている。今後は昨年の2倍は販売したい」と意気込む。

切削材料 射出成形ブロック活況



旭モールドینگの積層成形ブロック「L-cube」(左)。バイオプラなど特殊な樹脂製品も取りそろえる

積層成形でボイド抑制

旭モールドینگは、独自開発の金型を用いて樹脂ペレットからタイムINGKをみながら1層ずつ射出成形を繰り返して作る積層状の切削用板材料「積層成形ブロック」を展開している。3〜4mmの厚さを持つ段階で樹脂を金型内で積層成形することにより、切削材料で最大の問題となるボイド(気泡)の発生を防いでいる。ブロック側面にはパーティングラインが見えるが、接着剤などは用いておらず、内部は各層が密着しており表面は見えない。「これまでボイドのクレームはない」という。

高強度化・製品形状自在に

「平成25年度のものづくり補助金」を得て開発したもので、すでに多様な業界で採用。事業として軌道に乗ってきた(福田社長)。固化押出などによるブロックを用いた切削加工の場合は、押出グレードの樹脂を用いるため、緻密に言えば量産化時とは分子構造などが異なる樹脂でテストすることになる。しかし同社の積層成形ブロックならば同じ射出グレードを用いる。

「積層成形ブロック」を提案する。比較的小ロットから対応し、短納期、低コストでボイドレス、積層界面のない射出グレードによる25ミリのブロックを提供できる。材質はポリオレフィンなど汎用プラスチックからポリエーテルエーテルケトン(PEEK)、PPSなどのスーパーエンジニアリングプラスチックまで幅広く、添加物はすべてPEIなどの高耐熱樹脂を取りそろえるほか、ポリ乳酸(PLA)やバイオポリカーボネート(PC)など、バイオプラスチックの品揃えも拡充している。最近ではPA46などPA系の充実や、医療機器向けポリエーテルスルホン(PES)などの開発により高機能化に取り組んでいる。

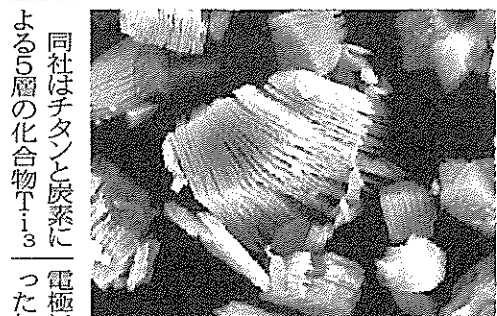
また、これまでの角型形状に加え、丸型の金型も導入し、芳香族PAやPPSなどの強化樹脂において応力クラックが発生する問題を解決できるようなるなど、IMPブロックのバリエーションを拡充し、需要家の要望に応え続けている。

導電ナノ材料スラリー化

日本材料 電極設計の自由度向上

素材スタートアップの日本材料技研(東京都中央区)は、リチウムイオン電池や蓄電池の高性能化に役立つ新規ナノ材料を開発する。チタンなどの金属と炭素の複合素材

で、電極に使うことで導電性が高まり、高出力化につながる。電極に塗布する際の加工がしやすい高濃度分散液として工業化に取り組み。向こう5年以内の実用化を目指す。



Ti₃C₂の顕微鏡写真

「新製品・新技術開発助成事業」の補助金を活用して製造条件などを確立する。顧客の評価を経て、2024年4月以降の発売を目指す。日本材料技研は化学会社や研究機関などで開発された革新技术のライセンスなどを取得し、事業化に取り組むスタートアップ。マキシンは、米ドレクセル大学が11年に研究成果を発表した新素材。

「グラフェン」と似た結晶構造を持ち、高い電気伝導率や電極活性がある。リチウムイオン電池やナトリウムイオン電池などの電極材料に利用できる。同社はチタンと炭素による5層の化合物Ti₃C₂を電極に薄く塗布するといった加工がしやすい。電